

佐藤 きいち郎

三鷹市政を 新しく

三鷹に密着
6年間の
実務経験

地域の声が原動力!!

元国会議員秘書

40歳

こんにちは、私は佐藤帰一郎（きいちろう）と申します。

地元三鷹の衆議院議員（保守系国会議員）秘書として、三鷹に密着6年間。平日はもちろん、土日祝日も日々三鷹市内を駆け回り、伝統の三鷹と新しい世代の三鷹の両方を、心にきざんできました。

今、新型コロナウイルスという未曾有の危機を経て、三鷹は伝統継承も新しく始まりかけていた取り組みもどちらも力を発揮できない事態になってきていると思います。

新しい時代に向けた新しいアイデアの結集が必要です。

Z世代と平成、昭和世代をつなぎ、市民の町三鷹を、今一度活性化させたい。皆さん、一緒に取り組んでいきませんか。



住所：〒181-0012 三鷹市上連雀2-5-20 **フチ・ロアジス202号室**
 電話：080-6529-0562
 e-mail：taikorugby@gmail.com

プロフィール

Z世代と平成、昭和世代をつなぐ40歳（1982/昭和57年生まれ）
 日本大学第二中学校・高等学校（6年間ラグビー部在籍）
 神奈川大学法学部・大学院（地方自治研究と、イギリス地方分権の研究）
 ロンドン・スコットランド留学（1年3ヶ月）
 保育・幼稚園などの子供事故対策を伝えるコンサルティング会社勤務

部活動の地域移行を、教員視点、中学生の成長の視点の両方から、正しい発展を目指し、最新理論での指導といじめを許さない体制を目指します。

都議会議員秘書から政治実務をスタート
 参議院全国比例候補者 畦元将吾（医療者）元秘書
 地元三鷹の衆議院議員秘書（～2022年8月まで。三鷹に密着6年）

三鷹に密着する秘書として活動してきた中で、三鷹の歴史と未来への発展には商工業も欠かせないという思いが強いです。中島飛行機の歴史が集積させた高精度な工業という伝統を、三鷹市政を支える軸として捉え、事業発展と起業に選ばれる町としての発展を目指します。

2017年の一年間など大沢のほたるの里三鷹村の村民として、田んぼの活動に参加、里山づくりを大切にしています。母 元幼稚園教諭、父 自衛官（歯科医官）の元に生まれる。



都市農業と緑地(グリーンインフラ)で 都市農業 三鷹を新しく

緑地を市民生活に不可欠なインフラなのだ、
「グリーンインフラ」として捉え、また三鷹のブランド戦略として緑地の充実に取り組むことが重要です。例えば、写真の新川丸池の里での手法は、三鷹市が緑地を林地に限らず保存した事例です。この応用や、災害備蓄用農作物生産での農地利用などなど、農業者の方々と交えた市民のアイデアで緑地の確保に取り組みたいと思います。



リモートワーク施設の誘致で 働き方 三鷹を新しく

コロナ禍でのリモートワークの経験は、通勤に費やす時間が無くなる分、子育てや、家族との時間、パートナーとの時間を豊かにできる社会を示しました。しかし、在宅だけでは対応が難しい時もあるのも実際です。例えば狛江市は、三鷹市よりも人口規模が約半分である環境にあります。近年、シェアオフィスの開業が少なくとも3件ほど見られます。



憩いの空間で三鷹を新しく 公園

写真は上連雀9丁目の広場です。小中規模の公園にも、防災ベンチとテーブルを整備すれば、井戸端会議の場になります。健康長寿や子育て世代の安心の増進のために、外で気軽に使える設備が重要です。公園お友達とのゆるやかな交流が地域の輪になります。
井ログラウンドの再整備——その半面については、広く芝生の広場になれば、スポーツ利用もピクニックもできますよね。



商店を応援で三鷹を新しく 商店振興 “広報みたか” に商店紹介特別号を

コロナ禍は、町中から人を減らし、商店の賑わいに打撃を与えました。地域の商店の活性化は、地域のコミュニティの活性化をもたらします。三鷹市商工会実施の三鷹まちぜみの機能は、市民への広範な商店の紹介です。例えば、これに加えて、市政広報「広報みたか」に年に1回、商店紹介特別号を発行。三鷹市内の全商店を紹介する。特に新しく三鷹に住み始めた皆さんに、三鷹の商店を知る機会を提供することが重要です。店主さんとの小さな会話が、地域情報の交換になり、このゆるやかなコミュニティが地域を見守ります。



税収対策で三鷹を新しく 税収 起業家誘致、ふるさと納税、福祉の発展と持続

これからも誰もが住み良い三鷹、福祉に優しい三鷹、子育て安心の三鷹を維持するには、税収の確保が必要です。今は転入人口の増加による税収のある、選ばれる町三鷹。人口減少を見据えた時、起業の誘致、事業者の誘致で、税の増収を目指すことが重要だと思います。団塊の世代の皆様健康長寿社会を支える福祉予算が必要なこと、人口減少もあること、今は始める税収施策が、20年後、30年後の三鷹を救います。例えば、空きテナントと商店街に招きたい事業の発信型・募集型のマッチングの実施や、現行の“みたかビジネスプランコンテスト”を拡充し受賞特典を家賃補助に転向するなど、三鷹への定着を図る施策が重要です。

防災で三鷹を新しく 福祉施設の電源対策、発災の時期時間想定ごとの対応整備、ペット動物の避難整備の理解促進、大災害時人権規律対策の整備 防災

三鷹市内の防災訓練は活発で、既に様々なノウハウが蓄積しています。しかし現実を見据えると、まだどうしても整備が必要な事項があります。4つあり、①福祉施設の電源対策、②発災の時期・時間想定ごとの対応整備、③ペット動物の避難整備の理解促進、④大災害時人権規律対策の整備です。

- ①事例として、2022年3月17日宮城・福島発生地震6強の地震があり、三鷹市内でも停電がありました。医療機器継続のため、福祉施設の電源対策が必要です。
- ②例えば、農地を一時避難場所として災害時にしっかり利用できるようにするにも、農作物との関係で、季節ごとの防災プランが必要です。
- ③ペットと生活しているご家庭は、たとえ大災害であっても、ペットを置き去りにして自分だけ助かろうという思いの方はまずいません。避難所でのペット保護整備は、人間を守ることに直結するのです。
- ④残念なことではありますが、避難所生活が始まると、仮設トイレ周辺の性犯罪など、人権を侵害する犯罪が発生するのが実際です。いつも信頼していた隣人を加害者に変貌させてしまわないためにも、例えば、女性の消防団団員の加入環境の整備も目指すべきと思います。



若者支援で三鷹を新しく 10代・20代支援

10代、20代の若い世代の皆さんの飛躍も地方政治・市政の課題です。例えば、三鷹市民や三鷹に通学、三鷹で勤務していることを会員条件にした動画配信スタジオを整備するなど、“若い世代の活躍を後押しする施策”もこれからの市政には重要です。アプリケーションの試作など、試行錯誤をできるガレージ的な場によって、若い世代の飛躍の可能性と夢と意欲を支援できるはず。部活動の見直し・いじめも対策

今、部活動のありかたの見直しが始まっています。多すぎる練習日や、長すぎる活動時間を見直せば、文化活動もスポーツも、もっと上達するはず。一緒にいる時間が長すぎるせいで、“いじめ”にもつながり易いのです。部活動を複数の学校で合同して行えば、学校を超えた友達、新しい友達ができます。また、学校の先生だけでなく、専門性の高いコーチに教えてもらえることで、これまで以上の上達を期待できます。

福祉の視点で三鷹を新しく 福祉 ホームドア設置を

誰もが安心して暮らせる三鷹のために、ホームドアの設置を。駅の混雑時も含め、誰もが安全に利用できる環境が必要です。



佐藤きいち郎 後援会 入会申し込み

フリガナ			
お名前			
ご住所	〒 -		
お電話番号	e-mail	@	

佐藤 帰一郎
住所：〒181-0012 三鷹市上連雀2-5-20 プチ・ロアジス202号室
電話：080-6529-0562 e-mail：taikorugby@gmail.com